



岡山県マスコット「ももっち」

令和7年度勤務実態調査から

働き方改革に関する意識と時間外在校等時間

令和7年6月に教職員の勤務実態調査を実施しました。調査では、働き方改革に関する意識調査も行っています。今回は、意識調査の項目に対する回答と時間外在校等時間の関係について紹介します。

①時間を意識した働き方

どの校種でも、肯定的な回答をした人は否定的な回答をした人に比べて、時間外在校等時間が短く、特に小学校では20時間以上の差がありました。

「〇時まで帰ろう。」「この業務は△分で終わらせよう。」など時間を意識することが業務を効率的に行うことにつながっていると考えられます。

①時間を意識した働き方を心掛けていますか。

	(肯定的回答)	(否定的回答)
小学校	約38時間	約59時間
中学校	約44時間	約56時間
高等学校	約45時間	約54時間
特別支援学校	約23時間	約33時間

②業務の見直しを意識した働き方

どの校種でも、肯定的な回答をした人は否定的な回答をした人に比べて、時間外在校等時間が短くなっています。

目指す子どもの姿を踏まえ、業務の廃止・簡略化・焦点化を意識することが業務量の削減につながっていると考えられます。

②業務の見直しを意識した働き方を心掛けていますか。

	(肯定的回答)	(否定的回答)
小学校	約37時間	約51時間
中学校	約44時間	約52時間
高等学校	約45時間	約52時間
特別支援学校	約23時間	約27時間

Pick Up!

学校の実態に応じた取組の推進

瀬戸内市の小・中学校では、働き方改革を自分たちで実現するという意識を醸成し、各校の実態に応じた効果的な取組を進めるため、令和7年度から校務分掌として働き方改革担当者を置いています。

瀬戸内市教育委員会は、担当者を対象にした研修会を開催し、所属校の課題を踏まえた業務改善の提案書を作成するワークショップを実施するなど、学校の主体的・組織的な取組が実現するよう支援しています。



参加者の声

- 一人ひとりの意識を変えるためにも、早く帰るメリットを伝えたり、早く帰る雰囲気を作ったりしたい。
- 先生方の意識改革の視点で、具体的な対策を考えることができた。会議や研修の効率化について、読んで分かるものは説明を省略したり、協議内容を焦点化したりする提案をしたい。
- 同じブロックの学校と取組や課題を共有し、自校でも活用できる方策を学ぶことができた。職場内の一人ひとりが自分のよりよい働き方について考え、自分の課題を見つめ、めあてをもって取組を進める意識を広めていきたい。

